

哲学散歩 3



Jean

皆さんご存知のように、あるいはご存知ないように、哲学の主要テーマに「存在論」があります。古代ギリシャ時代の Parmenides が、純粋な「ある」を求めて開始した思考は、今も連綿と継続されているようです。プラトン、アリストテレス、トマス・アクイナス、ドゥッス・スコトゥス、デカルト、カント、ヘーゲル、ニーチェ、ベルクソン、ハイデガー、サルトル等々、哲学者と呼ばれるほとんどすべての人によって、豊饒な思索が展開されています。「存在するものはなぜ存在しているのか」「それはどのように存在しているのか」「なぜ“無”ではなく“有”なのか」「存在の謎」に挑みたい方、興味を持たれた方、ぜひとも彼らの著作をひもといてみてください。散歩がてらに、「存在」について考えるとき、思い浮かべるものに、幾何学で登場する“点”や“線”があります。“点”にはどんな広がりもなく位置のみがある。“線”にはいかなる太さもなく、長さのみがある。そのように

定義されています。はて？それらはほんとうに存在していると言えるのでしょうか。ただ頭のなかだけに、観念あるいは概念としてのみあるのでしょうか。どんなに鉛筆を細く削っても、太さのある線しか描けません。点も然りです。しかし周りをよく見渡してみると、いたるところに幾何学で定義された点や線を見定めることができました。ポイントは輪郭でした。自然物も人工物も、その輪郭をみつめると、みごとに太さのない線、位置のみの点が浮かびあがってきました。形あるものの境界と言ってもいいでしょう。そこでひとつ分かったのは、“点”や“線”はそれ自体として独立して存在することはできないということです。ここをスタート地点として、形なきものの存在について思考を進めることができそうです。たとえば、“心”の存在について……



▲高校時代を過ごした聖パウロ学園(東京八王子。当時、全寮制)

私が『ずっとハマってる』の報告書



【工作】

子どもの頃からずっとものづくりがすきです。学校の教科も図工、技術、美術、家庭科など(頭の使わない教科)が得意でした。ちょこちょこまごまとした作業が好きで、プラモデルなどもいっぱい作りました。小学生の時にゾイドとBB戦士を自分のお年玉で初めて購入し、夢中で作りました。お年頃になってからはガンプラにはまり爪楊枝を削ってラインを引いたり、タミヤをまぜまぜして色んな色を作って塗ったり。ルパン三世のプラモを作ったり。

しかし私は作る行程が好きだけで、できた作品を飾りたい!というわけではないのです。なので出来た作品は手元に全く残っておらず、すぐに誰かにあげてしまいます。これでは何だか勿体ない! なにか家に飾れて遊べるものはないか…と探していたところ、本屋さんで見つけました!

3D立体パズル ロボタイム
「手回しマールパルクール
コースター」



Level ★★★★★
254ピース

これは楽しそう! 作ったら遊べる!という事で近々制作に取り組む予定です。夜な夜なだらだらと作るのどのくらい時間がかかるかわかりませんが、完成品を次の回で報告出来る様にがんばります。

皆様、本年もよろしくお祈りします! ♪

カッター版はトモダチ

モロコ
よもやまばなし

睦月：水仙の間

あけましておめでとうございます! コロナ禍のなか迎えた2021年、四畳半の住人はニューイヤー感を出すことなく、今年もマイペースに過ごしている様子です。今年もまた四畳半をのぞいていただき住人のちょっとした変化や発見をお楽しみください!

今回ご紹介するのは「聖戦士ダンバイン」です。昨今小説や漫画で流行っている異世界転生モノの元祖といってもいい作品です。当時はまだファンタジー的世界観がめずらしく空を自由に飛び回り剣で戦う姿に強い憧れをいだいた事を覚えています。

今作にでてくるオーラバトラーというロボットは昆虫をモチーフにデザインされているのですが、怖いという理由で低年齢層からはあまり評判がよくなかったそうです。私は生物の筋肉や外殻を利用して作られた感じがとても好きでした。ただ途中から主人公機が変わるのですが、それまで登場していたオーラバトラーにはなかった変形機構があり尚且つカラーリングが赤や白を主体としており自然界の中に突然人工物が混ぜられたような違和感がありました、ある程度年齢を重ねてからわかったのですが玩具の売上不振を打開するために考えられた策だったそうです。大人の事情というヤツですね。

30年以上たった今でも新作のプラモデルが発売されるなど根強い人気がある作品です、一度ご覧になってください。



オーロードが開いたらいいなって思ってたな



カメラで「光」

光がないと写真は写りませんが、では光そのものの姿を見ることはできるのか? そんなわけで探しにいって来ました。



やま